

かけはし学習について

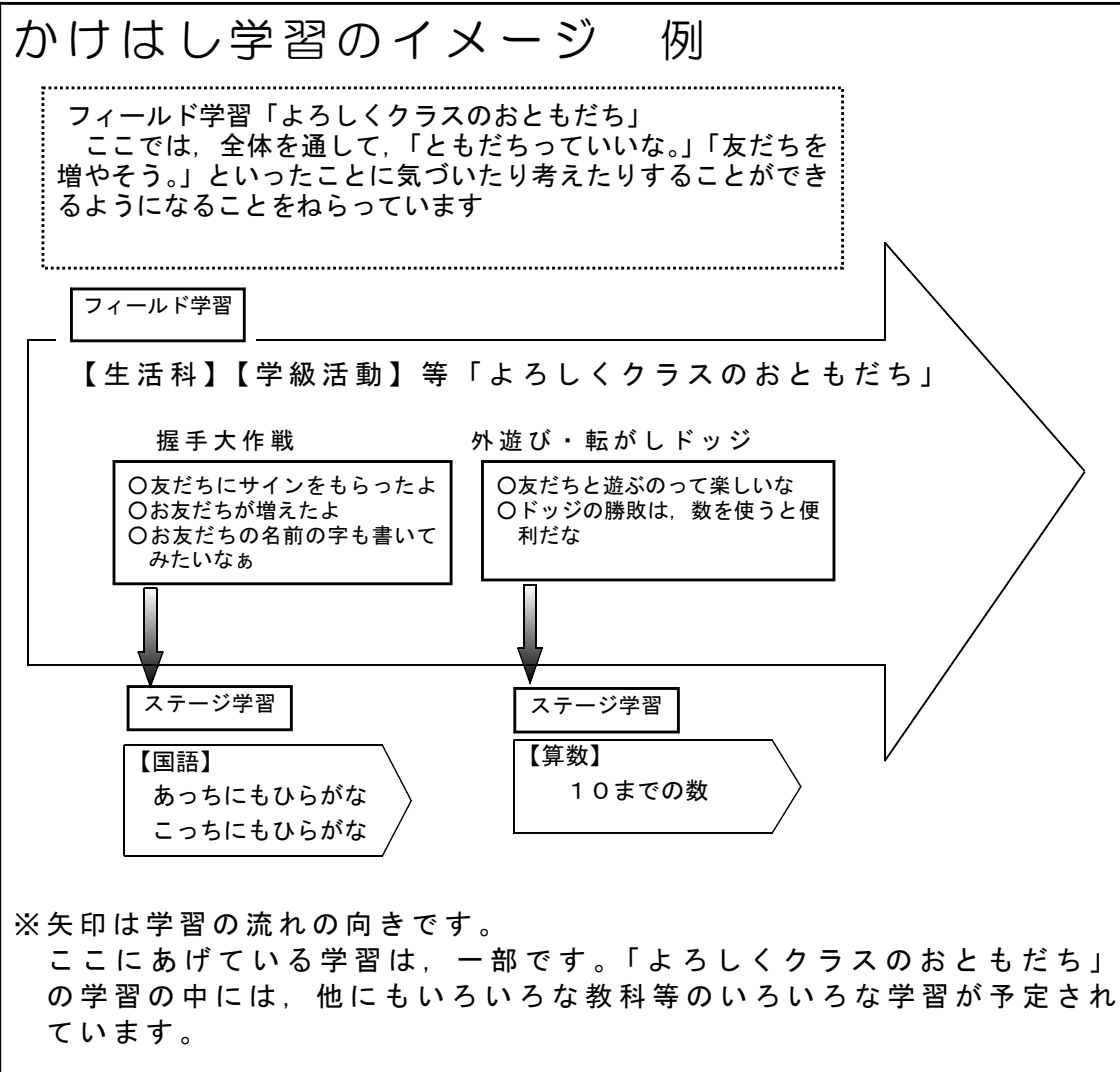
かけはし学習では、子どもの暮らしの中から生まれる興味・関心をもとに学習をつくっていきます。

下図のような構造で子どもたちは学習を進めていきます。

ひらがなは教科書の順番や「あいうえお」の順で覚えるのではなく、画数の少ない字、かみなり線（ぎざぎざの線）だけで書ける字から入っていきます。数の学習も遊びから導入します。

暮らしから出てくる学習なので、計画通りに進まなかったり、予定以上に進んでしまったりということもありますが、子どもたちの育ちを大切に、学ぶ意味を感じることを、学ぶ意欲をもつことを大切に導入や学習内容の配列を工夫しています。

したがって、本校1年生には週的时间割がありません。しかしながら、もちろん1年間を通して第1学年で学習すべき内容はすべて学習できるように年間のカリキュラムを組んで実施しています。



* フィールド学習

まず、子どもが学びたいと感じられるものを暮らしの中から見つけ、活動を立ち起こしていく活動を行います。この暮らしの中から立ち起こした活動を「フィールド学習」と呼んでいます。こうすることによって、学習を「おしつけられたもの」として感じるのではなく、「自分のしたいこと」として感じることができるようになるため、「なぜ席についてじっとしていないといけないのか」という子どもの疑問は解消します。そして、「こんな事も知りたい」「こんな事にも挑戦したい」「あれも育てたい」「それもつくってみたい」などと、学ぶことの喜びや意義を味わいながら学習に取り組むことができるようになります。従来の「教科ありき」「教科書ありき」の学習を廃し、就学前の教育で行われていた「遊び」の中の学びの理念を小学校が取り入れることで、就学したばかりの子どもたちの抵抗感は大幅に無くすことができるのです。

* ステージ学習

暮らしの中から見つけた学び（フィールド学習）を進めていく内に、その中からさらに焦点化した学びを取り出して学んでいくことを、「ステージ学習」と呼んでいます。例えば、運動遊びのような暮らしの中から見つけた学び（フィールド学習）を進めているとします。その中で、勝ち負けを数えて比べることが起こります。すると、「数えることそのものもおもしろい」と思うようになります。その機をとらえて、数量に焦点化した学び（ステージ学習）を始めるといった体験のことです。このような体験を繰り返していくと、子どもは暮らしの中から見つけた学びを行うだけでなく、暮らしから離れた学びを取り出すこともおもしろいと感じるようになります。このことは、2年生以降、教科学習に移行していくための貴重な導入となるのです。

詳しくは、

「学校が大好きな1年生をめざして」

岡山大学教育学部附属小学校 かけはし学習研究会 著

東洋館出版社

をご覧ください。